

## ●みんなのお家の人はタバコ吸っている？ ファイザー社CMで有名な 津田徹院長の講演

加藤一晴 こどもをタバコから守る会・代表

### CMの意図するところ

ファイザー社は、2008年にチャンピックス（禁煙治療薬）発売以降、様々なTV-CMを放映している。これまでCM出演者は、館ひろしさん、石原軍団、仲間由紀恵さん、温水洋一さん、小西真奈美さんだったが、日常生活との距離があり、一般の国民にはその温度が伝わりにくい。中には「あれで禁煙できたら理想だが、自分には無理だろう」と諦めステージに追いやった人もいる。

現実には、20歳代はタバコを吸わず、60歳以上は何らかの理由で禁煙している。30歳～50歳の男性の企業就労者の喫煙率は40%あるが、喫煙者の大多数を占めるこの世代へのア

プローチは、我々も成す術はなかった。

しかし、この世代の家庭の多くには、子供たちがいるので、「保護者参観会で、医師からの情報提供」は意義あるものだった。おそらくCM製作側もそれを意図したのでだろうし、歴代のチャンピックスCMで高評価と聞いている。CM監督の鈴木則彦さんとそのチームは、さぞかし喜んだことだろう。

### 講師・津田徹院長

主演の津田先生は実在の呼吸器内科医である。彼は現在、北九州市で霧ヶ丘津田病院を経営（久留米大学医学部 臨床教授 兼任）している。我が国のCOPD（慢性閉塞性肺疾



講演をする津田徹院長（上段写真）。津田院長の講演内容について質問する来場者。

### 講演内容

喫煙と社会的依存について言及があった。日本でタバコ対策が進まないのはなぜか？ タバコ産業会長に財務省出身者が就任し、広告費213億円や販売促進費1478億円かけて、国民が禁煙しにくい環境を整備していることも一因だ。

受動喫煙のない世界の実現だが、受動喫煙から女性に急増する肺がんになっても、因果関係を疑えない現実がある。2007年に禁煙法を施行したイングランドで、心筋梗塞による入院が2.4%減少している。禁煙外来は、2014年で1万5000カ所を超えるが、喫煙者は国家的な戦略にはまり趣味・嗜好という概念から抜け出すことはできない

しかし、海外では喫煙行為は「ニコチン依存症」という病名なので、健康保険を使うことができる。医師から禁煙について話を切り出された喫煙者の90%は好意的に受け止めているし、禁煙を勧められることを「うれしいと思う」と約3分の1の患者が回答している。

医療用禁煙補助薬を使用するきっかけは、「医師から勧められたから」が約半分で、実際の禁煙治療の流れでは、問診・検査・診断・治療の中で、看護師さんが診断の途中まで行なうと良い。看護師の禁煙介入によって、海外からは禁煙効果は約1.5倍に高まるというデータも届いている。つまり禁煙とは、医療従事者

患の第一人者である。語り口調もソフトで説得力もあり、多くのメッセージを感じ取ることができる。現役喫煙者の30～50歳代に向けて、子供の立場から語ってもらうには、最高の語り部だ。

そのため、集客をどうすべきか考えテーマを、「タバコの真実を知れば、禁煙を勧めたくなる」とし、サブテーマは、「しみじみやめてよかった！」と思える話」にした。

医療従事者が対象なので、静岡県医師会報5月号および6月号に講演会案内の掲載を済ませ、近隣医師会あてに講演会チラシを配布した。浜松には聖隷三方原病院と聖隷浜松病院があり、それぞれに健康管理センターがある。そしてヤマハ・ホンダ・スズキなどの世界的な企業もあり、それぞれの健康管理部門に講演会の情報提供をした。

この場合、講師の津田先生が現在進行形でTV出演中であることは、かなり集客に寄与したと思われる。結果、総勢120名もの来場者を集めることができた。

によるチームプレーなのだ。

120名の参加者に「共鳴」「共感」「納得」が得られたことが収穫だった。

### 今、可能な最大限の アクションを起こそう

「私はタバコ病にはならない」と確信的妄想にかられたヘビースモーカーも、孫の誕生で禁煙を決心することもある。喫煙者に対して関心を持つてキツカケを作ることが大切。たばこ規制枠組み条約は、「たばこ煙からの保護」を謳っていて、非喫煙者だけでなく、喫煙者も同じである。

嫌煙家VS愛煙家ではなく、ニコチンVS人間と捉え、喫煙者と真摯に向き合うことが大切だ。さしあたって、2020年の東京オリンピックに向けて、喫煙対策を進めて行くことが大切。

以上の講演を聴いた参加者は、勇気つけられただろう。講演後は新たな意欲に満ち溢れた表情ばかりだった。